

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No.118

帽子類にも推奨規格が できました・・・



JIS T 8127 高視認性安全服の規格が制定されてから2年10ヶ月ほどになるのですが この間にこの規格をベースとした関連の団体規格が広がっています。JIS T 8127 は作業従事者を作業事故から守るために作業車両運転者からよく見える視認性の高い安全服として規格化されています。この考え方は当然のこと一般道路利用者や子ども達の通園・通学時にも適用できるものとして交通事故削減に取り組んでいる団体が独自の規格として制定する動きに繋がってきました。



規格制定の動き

2017年11月に（公社）日本保安用品協会が「JSAA 2001 一般利用者向け高視認性安全服」を発行しました。軽作業者の事故削減や一般の道路利用者の交通事故削減に対応した団体規格となっています。それより先に2016年12月には（一財）日本交通安全教育普及協会が「JATRAS 001 児童向け高視認性安全服」と「JATRAS 002 自転車通学者向け高視認性安全服」を制定しました。こちらは子ども達の交通事故削減に高視認性安全服の機能を取り入れようと考えられたものです。交通安全教育普及の団体なので常に交通事故を減らす対策を考えていることから高視認性安全服の規格ができたのと同時に取組が始まりました。

規格を取り入れようとしたものの「JIS T 8127 高視認性安全服」規格には“子どもサイズがない” “色数が蛍光イエロー 蛍光オレンジレッド 蛍光レッドの3色しか規定されていない” “夏用のメッシュ素材が使えない”などの不都合がありました。そこで独自の団体規格のJATRAS規格（ジャトラス規格）を策定することになりました。前提として“子どもサイズあり” “色数は8色” “メッシュ素材使用可能”として作られたので応用のきく規格となりました。もともと再帰性反射材の普及には以前から取り組んでいたこともあり 規格作成はスムーズに作業が進められました。



規格制定とともに今度は関連商品のランドセルカバーやランドセルごと覆えるレインウェアなどの推奨規格の要望や 塾帰りの交通事故が多いことへの対応としてスクールバッグや塾用かばんにも規格を作ってほしいとの要望が出始めました。結果「JATRAS 301 児童向け高視認性安全服の関連製品 推奨規格」「JATRAS 311 児童及び自転車通学者向け高視認性安全服の関連

製品「かばん類」推奨規格」が 2018 年の今年に制定されました。さらに 8 月 5 日に「JATRAS 312 : 2018 児童及び自転車通学者向け高視認性安全服の関連製品「帽子類」推奨規格」が発行されることになりました。

これで JATRAS 規格は 下記の 5 つになりました。

JATRAS 001 : 2016	児童向け高視認性安全服 規格
JATRAS 002 : 2016	自転車通学者向け 高視認性安全服 規格
JATRAS 301 : 2018	児童向け高視認性安全服の関連製品 推奨規格
JATRAS 311 : 2018	児童及び自転車通学者向け高視認性安全服の 関連製品「かばん類」推奨規格
JATRAS 312 : 2018	児童及び自転車通学者向け高視認性安全服の 関連製品「帽子類」推奨規格

かばん類の推奨規格

帽子類についてはデザインアイテムとして

アイテム1
キャップ型

アイテム2
ハット型

さらに使用環境に合わせて タイプ 1 とタイプ 2 に分けられています。

タイプ 1

昼間、夜間を問わず高視認性能を有するもの。
明所、暗所の両方に対応する。

タイプ 2

夜間での高視認性能に特化した、再帰性反射材を中心とするもの。
暗所を重点とする。

各素材の最少面積は

アイテム	タイプ1		タイプ2
	蛍光生地 の面積	再帰性反射材 の面積	再帰性反射材 の面積
	m ² (cm ²)	m ² (cm ²)	m ² (cm ²)
1	0,030 (300)	0,003 (30)	0,003 (30)
2	0,030 (300)	0,003 (30)	0,003 (30)

となっています。

特徴的なのは蛍光生地と再帰性反射材の両方を使用した 明所 暗所対応のタイプ 1 と暗所に重点を置いた再帰性反射材のみを使用した タイプ 2 の二通りの基準をかばん類の推奨規格と同様に設けています。

アイテム1
キャップ型(4色)



アイテム2
ハット型(4色)



帽子の推奨規格発行はこの猛暑の中で喜んでいただける意見も寄せられました。“命を脅かす危険な暑さ”・・・と何度もニュースで報道されるくらいの暑さの中 どれだけ薄くて軽い高視認性安全服を着用してと言ってもまず着てもらえませんか また無理に着用させても熱中症の危険にさらすだけになります。一方 帽子は炎天下の日射から頭を守るように指導をして着用を奨めています。この帽子に高視認性機能が備わっていれば交通事故の危険性を減らすことに繋がります。猛暑の中高視認性安全服の着用を嫌がる子ども達には 視認性の高い帽子を着用させることで熱中症対策と同時に交通事故から子どもを守る両方の効果が考えられます。

災害時の避難にも・・・

ちょっと話は逸れますが 災害時の避難にも高視認性安全服が注目され始めています。最近だけでも “ 6月の大阪北部震度 6弱の地震” “7月の西日本豪雨” “ 7月終わりから 8月にかけての台風 12号”など大きな被害が出てしまっています。避難時に迷子になったり足を滑らせて崖から落ちたり行方不明者も多く出てしまいました。避難誘導の折にも見守りやすいとか連絡が取れなくなった人を探す場合に 視認性の高い服を着ていると見つけやすいという声が聞かれるようになりました。高視認性安全服という範囲ではなく とにかく目立つ派手な服を着ていたほうが道に迷ったりした時には見つけてもらいやすいということなのです。



災害が起こった後の景色の色は 黄土色の土の色と瓦礫（がれき）の黒や灰色っぽい色彩になってしまいます。少しでも派手な色が見えると探しやすいことは間違いありません。災害時の避難用品に視認性の高い服をカンパンや水と一緒に備品として用意しておくのも必要なことに思っています。帽子やかばんでも視認性の高いものは災害避難には有効なアイテムになります。今回の帽子類の JATRAS 規格は需要の高い規格と考えているのですが 実際には再帰性反射材や蛍光生地使いの商品はあまり市場には出回っていません。帽子を取扱っている関係者の方 企画生産の検討を是非お願いしたいと思っております。

原稿担当：竹中 直（チョク）



使い捨て用ベスト

